

令和元年度

教育功勞者功績概要

千葉県教育委員会

1 教育行政の部

八街市教育委員会教育長 加曾利 佳 信

平成25年、八街市教育委員会委員及び教育長に就任し、同29年に教育長に再任し、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を生かし、ICT教育を推進するためのタブレット端末の導入や学校施設の耐震改修、空調設備設置を実施し、教育環境の整備に取り組んだ。また、八街市教育センターの充実、幼小中高連携教育やグローバル教育の推進を行い、学力向上に貢献した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元浦安市教育委員会委員 川 端 秀 仁

平成19年、浦安市教育委員会委員に就任。12年にわたり教育委員を務めた。卓越した見識と学校医としての豊富な経験を生かし、特別な教育的支援を必要とする子供の健やかな成長・発達を支援する「まなびサポート事業」では、医学的な視点から、幼児、児童、生徒の支援方策について取り組むとともに、健康診断や体力測定のある方、「教育ビジョン」の取りまとめ方策など様々な取り組みや事業について適切な指導・助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

野田市教育委員会委員 飯 田 芳 彦

平成20年、野田市教育委員会委員に就任し、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を生かし、野田市の教育振興に尽力した。特に就任時は、PTA会長としての経験を生かし、保護者からの意見を直接聴取しながら、円滑な学校運営に大きく貢献した。また、常に子供の健全な成長を考え、子供の安全に配慮しながら、市のいじめ防止対策の推進に取り組むほか、適切な指導・助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

野田市教育委員会委員 伊 藤 稔

平成19年、野田市教育委員会委員に公募委員として就任し、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を生かし、平成18・19年度の2年間、野田市が文部科学省の調査研究事業「新教育システム開発プログラム事業」の指定を受けた際は、理科教育を中心に地域の様々な教育資源を活用して学校教育を充実させるための学校と地域との連携・協働のシステム「地域教育プラットフォーム」づくりに尽力した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東庄町教育委員会委員 向 後 元 道

平成17年、東庄町教育委員会委員に就任。その間、委員長を3年務め、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を活かし、町の教育行政に適切な指導・助言を与えた。特に、少子化に伴う2度にわたる幼稚園統合を進めるとともに、幼稚園教育から小学校教育へのスムーズな橋渡しのために幼稚園型こども園とするなどの方向性を定めた。また、同町長年の課題であった老朽化した給食センターの建設に向けて、適切な指導・助言をするなど、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東庄町教育委員会委員 小 林 衛 治

平成17年、東庄町教育委員会委員に就任。その間、委員長を2年務め、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を活かし、町の教育行政に適切な指導・助言を与えた。特に、少子化に伴う町内5校の小学校統合のための地区住民への説明会を行い、小学校の統廃合実現に向けて推進した。また、町内小中学校の屋内運動場の耐震化工事、適応指導教室設置など教育環境整備を進めるように適切な指導・助言をするなど、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大網白里市教育委員会委員 齋 藤 壽 彌

平成16年、大網白里町教育委員会委員に就任。平成25年、市制施行により大網白里市教育委員会委員となり、現在に至る。卓越した見識と民間企業の要職で培った豊富な経験を生かし、学校耐震化や空調設備の設置などの教育環境整備に際し適切な助言を与えた。また、学校組織の活性化や教職員の働き方改革についても、積極的な提言をするなど、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

一宮町教育委員会委員 中 村 敏 夫

平成21年、一宮町教育委員会委員に就任。平成21年から通算5年間委員長を務め、現在に至る。卓越した見識と町職員としての豊富な行政経験を活かし、産官学連携による先進的なロボットプログラミング教育や小中学校へのエアコン設置等の学校施設整備、文化財保護活動などに適切な指導・助言を与えた。この間、平成29年に長生地区市町村教育委員会連絡協議会会長を務めるなど、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

白子町教育委員会委員 大多和 直 樹

平成20年、白子町教育委員会委員に就任。平成21年から同23年まで委員長を務め、その後、再び同25年から同26年まで委員長を務め、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験に基づき、きめ細やかな教育推進のため、小中連携教育を長期的視野において推進するとともに、各小中学校の学校施設整備としての耐震化や校庭の芝生化などに積極的に取り組み、同町の教育振興に貢献した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

2 学校保健の部

船橋市立前原小学校学校医 池田 佐嘉衛

昭和42年、船橋市立中野木小学校学校医に就任。以来、船橋市立二宮中学校等、船橋市内複数校の学校医に就任し、現在に至るまで、学校医として児童生徒の健康診断、健康相談はもとより学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、一般社団法人船橋市医師会理事、副会長を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立上本郷第二小学校学校医 朴 相 鉉

昭和54年、松戸市立上本郷第二小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、学校医として児童の健康診断、健康相談はもとより学校内の衛生環境整備等、学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康の保持増進に積極的に取り組むなど、学校保健の重要性についての認識を持ち、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

柏市立富勢小学校学校医 少名子 正 彬

昭和50年、柏市立第三小学校学校医に就任。以来、柏市立土小学校等、柏市内複数校の学校医に就任し、現在に至るまで、学校医として児童生徒の健康診断、健康相談はもとより学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、一般社団法人柏市医師会理事、副会長、会長を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立向台小学校学校医 川 邊 成

昭和56年、成田市立玉造小学校学校医に就任。以来、成田市立橋賀台小学校等、成田市市内複数校の学校医に就任し、現在に至るまで、学校医として児童の健康診断、健康相談はもとより学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、公益社団法人印旛市郡医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

白井市立大山口小学校学校医 豊 田 成

昭和54年、白井市立大山口小学校学校医に就任。以来現在に至るまで、学校医として児童の健康診断、健康相談はもとより学校保健全般にわたり指導・助言を行い健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、公益社団法人印旛市郡医師会理事、監事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

白井市立清水口小学校学校医 島田敏雄

昭和54年、白井市立清水口小学校学校医に就任。以来、白井市立池の上小学校学校医と併せ、現在に至るまで、児童の健康診断、健康相談はもとより学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、公益社団法人印旛市郡医師会理事、監事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

南房総市立千倉中学校学校医 山本宏

昭和49年、南房総市立健田小学校学校医に就任。以来、南房総市立健田幼稚園等、南房総市内複数校の学校医に就任し、現在に至るまで、学校医として健康診断等を行うなど、園児児童生徒の健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、公益社団法人安房医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立流山おおたかの森高等学校学校歯科医 高田正博

昭和54年、流山市立鱒ヶ崎小学校学校歯科医に就任。以来、流山市立南部中学校等、流山市内複数校の学校歯科医に就任し、現在に至るまで、学校歯科医として歯科相談・口腔衛生指導を通して、児童生徒の健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人流山市歯科医師会理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

我孫子市立我孫子第一小学校学校歯科医 本保一郎

昭和58年、我孫子市立我孫子第一小学校の学校歯科医に就任。以来、我孫子市立白山中学校等、我孫子市内複数校の学校歯科医に就任し、現在に至るまで、学校歯科医として定期歯科健康診断を通して、児童生徒の健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人我孫子市歯科医師会の理事を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

元鎌ヶ谷市立西部小学校学校歯科医 大山和次

昭和57年、鎌ヶ谷市立第二中学校学校歯科医に就任。以来、鎌ヶ谷市立西部小学校学校歯科医と併せ、36年の長きにわたり、学校歯科医として定期歯科健康診断を通して、児童生徒の健康の保持増進に積極的に取り組むなど、学校保健の重要性についての認識を持ち、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

佐倉市立印南小学校学校歯科医 佐藤 俊 則

昭和60年、佐倉市立内郷小学校の学校歯科医に就任。以来、佐倉市立印南小学校等、佐倉市内複数校の学校歯科医に就任し、現在に至るまで、学校歯科医として定期歯科健康診断を通して、歯科相談・口腔衛生指導を行う等、児童生徒の健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人印旛郡市歯科医師会の理事、副会長を務め、学校保健の重要性を認識し事業に取り組むなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立四和小学校学校歯科医 岡田 博 子

昭和56年、四街道市立旭中学校学校歯科医に就任。以来、四街道市立四街道西中学校等、四街道市内複数校の学校歯科医に就任し、現在に至る。学校歯科医として定期歯科健康診断を通して、児童生徒の健康の保持増進に積極的に取り組むなど、学校保健の重要性についての認識を持ち、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立真砂西小学校学校薬剤師 古山 陽 一

昭和56年、千葉市立真砂第二小学校の学校薬剤師に就任。以来、千葉市立真砂中学校学校薬剤師、千葉県立検見川高等学校学校薬剤師に就任し、現在に至るまで39年の長きにわたり、学校薬剤師として卓越した知識と優れた技術を持って学校環境衛生検査を実施した。その結果に基づき、学校に指導及び助言を行うなど、本県健康教育の推進に寄与した功績は大である。

元柏市立柏中学校学校薬剤師 齊藤 美知子

昭和45年、柏市立柏第四小学校学校薬剤師に就任。以来、柏市立柏中学校等、柏市内複数校の学校薬剤師に就任し、平成26年に至るまで、学校薬剤師として卓越した知識と優れた技術を持って学校環境衛生検査を実施した。その結果に基づき、学校に指導及び助言を行うなど、本県健康教育の推進に寄与した功績は大である。

千葉県公立学校職員健康審査会委員 角 南 祐 子

平成8年、千葉県公立学校職員健康審査会委員に就任。以来、現在に至るまで、23年の長きにわたり、県立特別支援学校職員の腰部疾患の診断等を行い、早期発見に努めるなど、学校職員の健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、公益財団法人ちば県民保健予防財団常務理事、千葉県職員健康管理審議会委員を務め、本県保健行政の進展に寄与した功績は大である。

千葉県公立学校職員健康審査会委員 高 橋 和 久

平成14年、千葉県公立学校職員健康審査会委員に就任。以来、現在に至るまで、18年の長きにわたり、県立特別支援学校職員の腰部疾患の診断等を行い、早期発見に努めるなど、学校職員の健康の保持増進に積極的に取り組んだ。また、千葉県原子爆弾被爆者健康管理手当等審査委員会委員を務め、本県保健行政の進展に寄与した功績は大である。

3 芸術・文化の部

(1) 個人の部

千葉県美術会常任理事 加藤 智

杉原元人，児玉希望，奥田元宗に師事し，日本画を学ぶ。主に日展，日春展，千葉県美術展覧会（県展）に作品を出品し，日展では平成6年，同12年に特選を，日春展では平成元年，同6年に日春賞を，県展では平成20年に県展60回記念の篠崎輝夫賞をそれぞれ受賞。平成14年には県展日本画部門の審査員を務め，同年には千葉県美術会理事，同24年から現職。千葉県美術会役員として県展運営及び後進の育成に尽力し，本県の芸術・文化の進展に寄与した功績は大である。

千葉県美術会常任理事 北井博文

東京藝術大学において彫刻を学ぶ。千葉県美術展覧会（県展）には，昭和53年以降，毎年作品を出品し，同54・57・58年と入賞を重ね，同62年には最高賞の県展賞を受賞。また，平成20年には県展60回記念の篠崎輝夫賞を受賞。この他にもグループ展等において作品を発表。平成元年には県展彫刻部門の実行委員，同5年からは審査員を務め，同6年には千葉県美術会理事となり，同30年から現職。千葉県美術会役員として県展運営及び後進の育成に尽力し，本県の芸術・文化の進展に寄与した功績は大である。

千葉県美術会常任理事 高木 彌生

大森運夫に師事し，日本画を学ぶ。主に創画会展，多摩総合美術展，千葉県美術展覧会（県展）に作品を出品する。多摩総合美術展では平成8年に大賞，同9・11・12年には特選を，県展では同6・8年と入賞を重ね，同9年には最高賞の県展賞を，同20年には県展60回記念賞をそれぞれ受賞。平成12年には県展日本画部門の審査員を務め，同14年には千葉県美術会理事，同24年から現職。千葉県美術会役員として県展運営及び後進の育成に尽力し，本県の芸術・文化の進展に寄与した功績は大である。

千葉県美術会常任理事 田辺 知治

高田誠に師事し，洋画を学ぶ。主に一水会展，日展，千葉県美術展覧会（県展）に作品を出品し，一水会展では昭和55年に一水会賞を，日展では同56年と平成5年に特選を，県展では昭和63年に千葉県美術会賞をそれぞれ受賞する。平成9年には県展洋画部門の審査員を務め，同12年には千葉県美術会理事，同24年から現職。千葉県美術会役員として県展運営及び後進の育成に尽力し，本県の芸術・文化の進展に寄与した功績は大である。

千葉県茶華道協会理事長 関本清人

平成8年から理事として千葉県茶華道協会の運営に携わり、副理事長を経て、同28年から理事長に就任し、茶華道の普及・継承に尽力した。各流派の特徴を生かした華道展、大茶会など様々な事業を展開し、茶華道の魅力を伝えるとともに、ワークショップや子ども向けの体験教室にも積極的に取り組み、日本の伝統文化を後世に伝える活動に尽力するなど、茶華道を通じて、本県の芸術文化振興に寄与した功績は大である。

千葉県吹奏楽連盟理事長 相川隆司

昭和54年に千葉県立浦安高等学校に教諭として赴任以来、君津高等学校、袖ヶ浦高等学校等で勤務。在職中は、吹奏楽部顧問として、課外活動の充実に尽力した。昭和60年から理事として千葉県吹奏楽連盟の運営に携わり、副理事長を経て、平成29年から現職。吹奏楽コンクール等の同連盟主催事業に中心となって取り組み、本県の吹奏楽の活性化に尽力するなど、吹奏楽を通じて、本県の芸術文化振興に寄与した功績は大である。

佐倉市文化団体連絡協議会会長 横田博

平成12年から役員として佐倉市文化団体連絡協議会の運営に携わり、同14年には会長に就任し、同協議会の運営に尽力するとともに、市民文化祭の委員長として文化祭の企画運営に中心となって取り組み、地域における芸術文化活動の活性化に尽力した。また、平成13年の設立時から印旛郡市文化団体連絡協議会の会長を務め、同29年には千葉県芸術文化団体協議会の常任理事に就任し、更に活動の幅を広げるなど、本県の芸術文化振興に寄与した功績は大である。

千葉県銃砲刀剣類登録審査委員 宇田川武久

古式銃砲類研究家の第一人者で、國學院大學文学部講師、国立歴史民俗博物館研究部教授として後進の指導に当たる傍ら、文化庁が開催する「銃砲刀剣類登録鑑定実技講習会」の講師も務めている。平成20年3月、国立歴史民俗博物館を定年退職、名誉教授となり、同年5月から現在に至るまで、千葉県銃砲刀剣類登録審査委員として古式銃砲の鑑定審査に従事している。豊富な知識と正確な鑑識眼は、円滑かつ適正な審査の遂行に寄与しており、本県の文化財保護に対する功績は大である。

千葉県文化財保護指導委員 小藤田一幸

昭和45年より鋸南町立第一中学校を皮切りに安房地区、君津地区の小中学校教諭として教鞭をとる傍ら、昭和54年から断続的に通算30年の長きにわたって千葉県文化財保護指導委員として委嘱を受ける。安房地区に所在する国指定史跡や埋蔵文化財包蔵地の巡視活動に従事し、日本史の専門的な知識に基づいて適切な報告を行うとともに、埋蔵文化財の保護に尽力している。現在も継続して従事し、精力的な巡視活動を続けており、本県の文化財保護に寄与した功績は大である。

元千葉県文化財保護指導委員 藤田 大安

昭和56年に市原市教育委員会事務職員に採用され、翌57年からは市原市立有秋中学校を皮切りに市原地区の小中学校教諭として教鞭をとる傍ら、昭和57年から平成23年まで、30年の長きにわたって千葉県文化財保護指導委員として委嘱を受け、市原地区・山武地区に所在する国指定史跡や埋蔵文化財包蔵地の巡視活動に従事した。この間、日本史の専門的な知識に基づいて適切な報告を行うとともに、埋蔵文化財の保護に尽力しており、本県の文化財保護に寄与した功績は大である。

千葉県指定有形文化財所有者 加瀬 順一郎

江戸時代に食用油商として創業し、江戸末期からは醤油醸造業を営む「正上醤油店」の主人。「正上醤油店」は天保3年建築の店舗と明治時代前期建築の土蔵からなり、小野川岸には荷上場である「だし」が残る。伝統的町並みを構成する重要な建造物であることから、平成4年2月28日に千葉県有形文化財（建造物）に指定され、その後27年以上の長きにわたって建築当初の姿の保存と伝統的な町並みの保護に寄与した功績は大である。

千葉県指定有形文化財所有者 久保木 秀夫

江戸時代中期頃に現在地に移り住み、酒造業や奈良漬の製造を行った「旧油惣商店」の主人。「旧油惣商店」は明治33年築の店舗と寛政10年築の土蔵からなり、土蔵は佐原の町に現存する最古の土蔵である。伝統的町並みを構成する重要な建造物であることから、平成5年2月26日に千葉県有形文化財（建造物）に指定され、その後26年以上の長きにわたって建築当初の姿の保存と伝統的な町並みの保護に寄与した功績は大である。

千葉県指定有形文化財所有者 並木 久雄

江戸時代に創業した乾物商「中村屋乾物店」の主人。「中村屋乾物店」は、佐原の大火で焼失し明治25年に建てられた店舗と、同18年に建てられ、大火後、同25年に木造3階部分が増築された文庫蔵からなる。伝統的町並みを構成する重要な建造物であることから、平成4年2月28日に千葉県有形文化財（建造物）に指定され、その後27年以上の長きにわたって建築当初の姿の保存と伝統的な町並みの保護に寄与した功績は大である。

成田市文化財審議委員会委員長 小倉 博

成田山霊光館の総務課長として勤務する傍ら、昭和50年から成田市史編さん委員、同52年からは成田市文化財審議委員会委員を務め、平成27年からは同審議委員会委員長の重責を担っている。昭和50年から同60年にかけては、千葉県文化財保護指導委員や八千代市文化財審議会委員も務めた。一方で、平成20年からは、文化財愛護団体である成田市文化財保護協会の会長として地域史研究と情報発信を精力的に続けており、本県並びに成田市の文化財保護及び地域振興に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

白子町文化協会

平成4年の設立以来、広く町民の文化意識の高揚と地域文化の振興を図り、教養と文化の香り高い町づくりに寄与することを目的に活動を続け、同町の文化振興の基盤を支えてきた。文化祭の企画運営に参画し、文化祭を多くの町民による日頃の活動成果発表の場、交流を深める場とすることに努めた。また、平成11年から千葉県芸術文化団体協議会に加盟し、更に活動の幅を広げるなど、本県の芸術文化振興に寄与した功績は大である。

野田津久舞保存会

千葉県無形民俗文化財「野田のつく舞」の保持団体。毎年7月15日付近の土曜日に野田三ヶ町の夏祭り、雨乞いの神事として奉納される。夕暮れ時、白装束にカエルの仮面を被った舞い手が、高さ約14mのつく柱に登り、お囃子に合わせて曲芸的な演技をしたり、頂上で四方に破魔矢を放ったりと、手に汗握る演技を披露する。古代中国から伝わった蜘蛛舞と呼ばれる芸能の系譜をくみ、その形態をよく残していることから、平成5年2月26日に県無形民俗文化財に指定された。指定後26年にわたって活発に活動を続けており、本県の文化財保護と地域振興に寄与した功績は大である。

下総郷土史研究会

昭和43年、旧香取郡下総町に在住する歴史愛好家を中心に「下総郷土史研究会」を設立。下総公民館のサークルのひとつとして活動を続けており、現在の会員数は70名を超える。昭和54年、発展的に「下総町郷土史研究会」と改称し、翌55年には機関誌「史談しもふさ」を創刊するなど、活動を活発化した。平成18年に成田市と下総町の市町村合併に伴って再び「下総郷土史研究会」に改称。現在も、「史談しもふさ」刊行のほか、地域史の研究会や関東近県を巡る研修旅行を行うなど、設立以来50年以上の長きにわたって活発に活動しており、本県及び成田市下総地区の文化財保護に寄与した功績は大である。

仁組獅子舞保存会

千葉県無形民俗文化財「仁組獅子舞」の保持団体。「仁組獅子舞」は、天明の大飢饉の際に、現在の九十九里町で五穀豊穰と疫病退散を祈願して奉納された獅子舞が、匝瑳市栢田仁組地区に伝わったとされる。毎年1月第2日曜日の初茶飯の祝い日に、地区内30戸余りを一軒ずつ回って獅子舞が舞われる。戦中に中断したが、昭和40年代半ばに仁組里の全戸により保存会を結成して復活し、梯子獅子などの勇壮な演目や、郷土色豊かなお囃子などの特徴から、同59年2月24日に県無形民俗文化財に指定された。指定後35年にわたって確実に継承しており、本県の文化財保護と地域振興に寄与した功績は大である。

飽富神社氏子

千葉県無形民俗文化財「飽富神社の筒粥」の保持団体。袖ヶ浦市飯富の飽富神社で、毎年1月14日の夜から15日の朝にかけて行なわれる小正月の年占行事で、粥の中に葦の筒を投げ込み、筒の中に詰まった粥の分量によってその年の農作物の豊凶を占う。農業生産とも結びつく原初的な日本古来の占いが、厳粛な神事として連綿と執り行われ続けていることから、昭和63年3月30日に県無形民俗文化財に指定された。指定後31年にわたって、地域文化の振興に大きな役割を果たしており、本県の文化財保護と地域振興に寄与した功績は大である。

4 社会教育の部

(1) 個人の部

日本ボーイスカウト千葉県連盟コミッショナー 片 寄 朗

平成15年から11年間、千葉県連盟副コミッショナーを務め、同27年からは地区代表理事として現在に至る。公益財団法人ボーイスカウト日本連盟においては、平成24年から6年間、国際委員として全国のボーイスカウトの国際化に貢献した。また、同連盟主催の日韓交流事業においても、3度、日本派遣団長を務めるなど、本県並びに全国のボーイスカウト運動の普及・発展及び本県社会教育の進展に貢献した功績は大である。

ガールスカウト千葉県連盟成人活動委員会委員長 今 井 邦 江

平成6年にガールスカウト千葉県第84団に所属し、25年にわたり指導者として団の運営に尽力し、現在に至る。平成15年からは、ガールスカウト千葉県連盟役員に就任し、4年間会計を務めた。その後も同連盟の役員を歴任し、平成27年からは成人活動委員会委員長、理事として同連盟の発展に寄与している。また、平成23年から現在に至るまで、ガールスカウト 트레이ナーとしても活躍し、本県のガールスカウトの進展に寄与した功績は大である。

ガールスカウト千葉県連盟総務委員会委員長 米 村 一 穂

平成5年にガールスカウト千葉県第54団、同9年から同第30団に所属し、現在に至る。入団以来、団のリーダー、書記、会計を経験し、地区においては、リーダー長、会計を歴任した。平成19年からは千葉県連盟役員として、同連盟の発展に積極的に取り組み、現在も総務委員会委員長として委員会の活動に尽力するなど、本県のガールスカウトの進展に寄与した功績は大である。

元八千代市子ども会育成連絡協議会会長 齋 藤 貴美子

昭和60年から現在に至るまで33年にわたり、子ども会活動に取り組む。平成元年から八千代市リーダースクラブの指導及び育成者の養成に組み、現在も活躍している。また、平成17年、八千代市子ども会育成連絡協議会の副会長、同21年、同会長に就任し、子ども会の充実・発展に尽力する。平成25年から2年間、千葉県子ども会育成連合会の理事、同29年から2年間監事を務めるなど、県内の青少年の健全育成に寄与した功績は大である。

前千葉県P T A連絡協議会会長 大 田 紀 子

平成21年から、浦安市立見明川小学校、同見明川中学校でP T A会長をそれぞれ5年、また、浦安市立小中学校P T A連絡協議会副会長、同会長を歴任した。千葉県P T A連絡協議会においては、平成25年から会計、副会長、会長を歴任し、その間、P T A代表の立場からの確かな意見を積極的に発言、提案し活躍した。また、日本P T A全国協議会においても副会長を務め、全国各地との連携を深める役割を果たすなど、本県のP T A活動の進展に寄与した功績は大である。

前千葉県高等学校P T A連合会会長 花 島 和 宏

平成29年、柏市立土小学校P T A副会長、千葉県立松戸六実高等学校保護者会会長に就任。平成30年、同小学校P T A会長、同高等学校保護者会副会長として各校のP T A活動を牽引した。平成30年度には、千葉県高等学校P T A連合会会長として高等学校P T A連合会をリードし、本県の社会教育・家庭教育の充実及び学校教育との連携を推進し、本県の青少年の健全育成に貢献した功績は大である。

千葉県ユネスコ連絡協議会副会長 安 藤 小 平

平成13年、木更津ユネスコ協会副会長に就任し、以来12年間務めた。平成25年からは同協会会長、また、千葉県ユネスコ連絡協議会理事、副会長にも就任し、現在に至る。平成27年には千葉県ユネスコ連絡協議会主催の「第47回全国子どもキャンプ」を成功に導いた。「持続可能な開発のための教育(ESD)」普及のための学校訪問や国際交流等日常の活動を通して、青少年にユネスコの理念である「心の中に平和の砦を築く」の精神を伝え続けるとともに、青少年の健全育成及び本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

袖ヶ浦市根形公民館

昭和62年の開館以来、芸術文化活動に重点を置き、陶芸教室や絵画教室を主催してきた。現在、陶芸12、絵画5サークルが自主的に活動を続けており、陶芸サークルは協議会を構成し、公民館に替わって陶芸教室を主催している。また、平成26年度から「ねがたオープンキャンパス」を開設し、地域の青年の企画、運営により、夏休みに小学生への学習支援と交流活動を実施している。さらに、生涯学習ボランティアである社会教育推進員による「炊き出し体験会」など、住民主体の学習が展開されている。これらの実践は高く評価されており、本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

5 学校教育の部

(1) 個人の部

ア 県立学校

千葉県立千葉高等学校長 佐藤 宰

昭和57年、千葉県立山武農業高等学校教諭。市川南高等学校教諭、千葉女子高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、千葉女子高等学校教頭、千葉県総合教育センター主任指導主事、同主席研究指導主事を経て、平成25年、若松高等学校長。その後、教育庁指導課学力向上室長、同副参事兼学力向上室長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉東高等学校長 渡部 徹

昭和57年、千葉県立柏陵高等学校教諭。松戸六実高等学校教諭、流山南高等学校教諭、小金高等学校教諭、教育庁教職員課管理主事、同指導課指導主事、松戸六実高等学校教頭、教育庁指導課主任指導主事、同教育課程室長を経て、平成27年、柏の葉高等学校長。その後、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立幕張総合高等学校長 北林 栄峰

昭和58年、千葉県立市川工業高等学校教諭。行徳高等学校教諭、松戸馬橋高等学校教諭、教育庁教育総務課副主幹（放送大学学園派遣）、同体育課指導主事、行徳高等学校教頭、教育庁体育課副課長、同主幹（財団法人千葉県体育協会派遣）、同副参事兼スポーツ推進室長、同課長を経て、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立船橋高等学校長 安藤 久彦

昭和58年、千葉県立銚子高等学校教諭。多古高等学校教諭、佐原高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、同高校教育課管理主事、佐原市立佐原中学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事、同教職員課主任管理主事、同人事室長を経て、平成24年、佐原白楊高等学校長。その後、教育庁副参事兼学力向上室長、千葉県子どもと親のサポートセンター所長、千葉県総合教育センター所長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立鎌ヶ谷高等学校長 赤松茂顕

昭和58年、松戸市立松戸高等学校実習助手。千葉県立柏南高等学校教諭，船橋旭高等学校教諭，沼南高等学校教諭，教育庁体育課指導主事，湖北高等学校教頭（平成23年より我孫子東高等学校に校名変更），教育庁体育課主幹を経て，平成27年，習志野市立習志野高等学校長。その後，平成30年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，保健体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立柏の葉高等学校長 渡部洋史

昭和58年，千葉県立国分高等学校教諭。行徳高等学校教諭，環境生活部県民生活課主査，船橋旭高等学校教諭，教育庁東葛飾教育事務所指導主事，同教職員課管理主事，柏の葉高等学校教頭，教育庁東葛飾教育事務所主任管理主事，特別支援学校流山高等学園副校長を経て，平成26年，八千代特別支援学校長。その後，平成29年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立印旛明誠高等学校長 長尾正利

昭和58年，千葉県立千葉工業高等学校教諭。千葉市立稲毛高等学校教諭，千葉県立千葉北高等学校教諭，教育庁体育課指導主事，同保健体育主事（財団法人千葉県スポーツ振興財団派遣），同生涯学習課副主幹，柏井高等学校教頭，教育庁体育課主幹（財団法人千葉県体育協会派遣）を経て，平成28年，柏市立柏高等学校長。その後，平成30年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，保健体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立佐原高等学校長 久門宏

昭和58年，千葉県立東葛飾高等学校教諭。成田園芸高等学校教諭（平成8年より成田西陵高等学校に校名変更），佐原市立佐原中学校教諭，柏児童相談所児童福祉司，佐倉東高等学校教頭，船橋高等学校教頭，佐原高等学校副校長を経て，平成27年，成田西陵高等学校長。その後，平成29年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，保健体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立銚子商業高等学校長 鈴木智

昭和58年，銚子市立銚子高等学校教諭。千葉県立匝瑳高等学校教諭，佐原白楊高等学校教諭，東金高等学校教諭，八街高等学校教頭を経て，平成27年，旭農業高等学校長。その後，平成30年から現職。この間，学校経営に実績を上げ，特に，地理歴史科及び公民科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立匝瑳高等学校長 加瀬 健 司

昭和57年、千葉県立船橋旭高等学校教諭。佐原女子高等学校教諭、銚子高等学校教諭、教育庁体育課主査、成田国際高等学校教諭、教育庁体育課指導主事、匝瑳高等学校教頭、銚子商業高等学校副校長を経て、平成27年、銚子高等学校長。その後、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立長生特別支援学校長 石 井 浩

昭和59年、千葉県立千葉盲学校教諭。千葉聾学校教諭、市原養護学校教諭、桜が丘特別支援学校教諭、教育庁南房総教育事務所指導主事、千葉盲学校教頭、教育庁特別支援教育課指導主事を経て、平成27年、安房特別支援学校長。その後、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立安房特別支援学校長 磯 辺 雅 志

昭和58年、千葉県立松戸つくし養護学校教諭。袖ヶ浦養護学校教諭、柏養護学校教諭、君津養護学校教諭、千葉県特殊教育センター研究指導主事、教育庁特別支援教育課指導主事、同南房総教育事務所指導主事、館山聾学校教頭、教育庁特別支援教育課主任指導主事、同県立学校改革推進課主幹、同特別支援教育課教育課程指導室長を経て、平成28年、君津特別支援学校長。その後、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立君津特別支援学校長 佐 川 桂 子

昭和57年、千葉県立市原養護学校教諭。千葉大学教育学部附属養護学校教諭、千葉県立長生養護学校教諭、教育庁教職員課管理主事、千葉聾学校教頭、教育庁教職員課主任管理主事、同免許班長、同特別支援教育課教育課程指導室長、同企画管理部副参事、同特別支援教育課長を経て、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立木更津高等学校事務主幹 藤岡 貴美子

昭和53年、千葉県立木更津東高等学校主事。千葉東高等学校主任主事、君津農林高等学校副主査、千葉県総合教育センター主査、千葉県子どもと親のサポートセンター庶務課長等を経て、安房拓心高等学校事務長。その後、県立学校事務長を歴任し、平成30年から現職。この間、よく校長を補佐し、円滑な学校事務の運営に努め、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立袖ヶ浦特別支援学校事務主幹 太田 秀男

昭和53年、千葉市立坂月小学校主事。千葉県立仁戸名養護学校主事、同主任主事、千葉盲学校副主査、鎌ヶ谷高等学校主査、西部図書館庶務課長を経て、鎌ヶ谷西高等学校事務長。その後、船橋法典高等学校事務長となり、平成29年から現職。この間、よく校長を補佐し、円滑な学校事務の運営に努め、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

イ 市町村立学校

習志野市立袖ヶ浦西小学校長 倉 信 毅

昭和59年、習志野市立第六中学校教諭。教育庁体育課主事、同主任主事、千葉県総合教育センター主任主事、教育庁振興課副主査、管内中学校教諭、習志野市教育委員会指導課指導主事、同学校教育課管理主事、習志野市青少年センター主査、習志野市立鷺沼小学校教頭、管内小学校教頭を経て、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立船橋小学校長 棚 田 康 夫

昭和58年、船橋市立宮本小学校教諭。管内小学校教諭、船橋市立坪井小学校教頭、船橋市教育委員会総務課長補佐を経て、平成24年、船橋市立市場小学校長。その後、船橋市教育委員会学務課長、同学校教育部参事兼学務課長、同部長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立市川小学校長 川 元 洋

昭和58年、市川市立行徳小学校教諭。管内小学校教諭、市川市教育委員会保健体育課主査、同副主幹、市川市立稲越小学校教頭、市川市教育委員会保健体育課主幹、同義務教育課主幹を経て、平成24年、市川市立新浜小学校長。その後、市川市教育委員会自然学習課長、教育庁葛南教育事務所主席指導主事、同指導室長、同次長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

浦安市立東小学校長 手 塚 和 真

昭和58年、浦安市立南小学校教諭。管内小学校教諭、浦安市教育委員会学務課副主幹、浦安市立日の出小学校教頭、教育庁葛南教育事務所管理主事を経て、平成25年、浦安市立入船北小学校長。その後、浦安市教育委員会指導課長、同教育総務部次長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

浦安市立明海南小学校長 原 早 苗

昭和57年、浦安市立富岡小学校教諭。管内小学校教諭、浦安市教育委員会指導課指導主事、浦安市立富岡小学校教頭、管内小学校教頭を経て、平成26年、浦安市立富岡小学校長。その後、教育庁葛南教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、家庭科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

柏市立柏第五小学校長 片 岡 通 有

昭和57年、柏市立柏中学校教諭。管内小中学校教諭、沼南町教育委員会学校教育課指導主事、柏市立田中中学校教頭、柏市教育委員会指導課統括リーダー、柏市立柏第二中学校副校長を経て、平成23年、柏市立酒井根東小学校長。その後、柏市教育委員会指導課長、教育庁指導課主席指導主事、同主幹を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

我孫子市立我孫子第二小学校長 鍵 山 智 子

昭和57年、我孫子市立湖北中学校教諭。管内中学校教諭、柏児童相談所児童福祉司、我孫子市立我孫子中学校教頭、管内小学校教頭を経て、平成24年、我孫子市立布佐小学校長。その後、我孫子市教育委員会教育総務部副参事、千葉県総合教育センター主席研究指導主事、千葉県子どもと親のサポートセンター所長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立成田小学校長 藤 井 大 介

昭和58年、成田市立吾妻中学校教諭。管内中学校教諭、成田市教育委員会社会教育課社会教育主事、同学務課管理主事、富里市立富里中学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事を経て、平成25年、栄町立栄東中学校長。その後、教育庁北総教育事務所管理課長、同次長、千葉県総合教育センター次長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

香取市立栗源小学校長 日下部 正 一

昭和58年、香取郡小見川町立小見川中学校教諭。管内中学校教諭、佐原市教育委員会総務課指導主事、千葉県総合教育センター指導主事、香取市立小見川中学校教頭、千葉県総合教育センター研究指導主事、教育庁指導課指導主事を経て、平成27年、香取市立小見川南小学校長。その後、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立鵠嶺小学校長 石川 貢彦

昭和57年、山武郡九十九里町立豊海小学校教諭。県内小学校教諭、千葉市青少年補導センター主査、東金市教育委員会学校教育課指導主事、同指導係長を経て、平成24年、東金市立日吉台小学校長。その後、東金市教育委員会学校教育課長、東金市立福岡小学校長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立正気小学校長 鈴木 正敏

昭和57年、山武郡大網白里町立増穂小学校教諭。管内小学校教諭、教育庁山武地方出張所指導主事、同東上総教育事務所指導主事、横芝光町立横芝小学校教頭、管内小学校教頭を経て、平成25年、横芝光町立南条小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席指導主事、同山武分室長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

山武市立成東小学校長 高 蝶 武

昭和57年、山武郡成東町立南郷小学校教諭。管内小学校教諭、教育庁山武地方出張所社会教育主事、大網白里町教育委員会スポーツ振興課長補佐、横芝光町立南条小学校教頭、教育庁生涯学習課社会教育主事を経て、平成26年、山武市立松尾小学校長。その後、教育庁生涯学習課学校・家庭・地域連携室長となり、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会教育・生涯学習の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

山武市立睦岡小学校長 畔 蒜 秀彦

昭和58年、千葉県立袖ヶ浦養護学校教諭。管内小学校教諭、大網白里町立大網小学校教頭、千葉県総合教育センター研究指導主事を経て、平成25年、山武市立山武北小学校長。その後、教育庁特別支援教育課教育支援室長となり、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立東郷小学校長 古 山 幹 夫

昭和58年、茂原市立富士見中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁学校保健課指導主事、同総務文書課主査、同教育総務課主査、長柄町立水上小学校教頭、教育庁東上総教育事務所管理主事、千葉県総合教育センター研究指導主事を経て、平成24年、茂原市立中の島小学校長。その後、茂原市教育委員会学校教育課主幹、同課長を歴任し、平成29年から現職。この間、教育行政及び学校経営に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立西小学校長 狩野久志

昭和58年、船橋市立高根中学校教諭。県内中学校教諭、白子町立白子中学校教頭、教育庁東上総教育事務所指導主事を経て、平成25年、茂原市立豊田小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席指導主事、同夷隅分室長、同指導室長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立萩原小学校長 宮本昌典

昭和58年、茂原市立茂原小学校教諭。管内小学校教諭、千葉市青少年補導センター主査、白子町教育委員会教育課主幹を経て、平成21年、茂原市立新治小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主任指導主事、茂原市教育委員会学校教育課主幹、同課長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

木更津市立真舟小学校長 中澤泰藏

昭和55年、長生郡長生村立高根小学校教諭。県内小学校教諭、教育庁振興課副主査、同主査補、同社会教育課指導主事、同企画広報課主査補、同主査、同県立学校改革推進課主査、同君津地方出張所管理主事、富津市立金谷小学校教頭、管内小学校教頭、教育庁南房総教育事務所管理主事を経て、平成23年、木更津市立中郷小学校長。その後、教育庁指導課主席指導主事、同主幹、同教育課程室長、同北総教育事務所長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

君津市立周西小学校長 小平紀男

昭和57年、千葉市立小中台中学校教諭。県内中学校教諭、袖ヶ浦市立総合教育センター研究指導主事、同教育委員会指導主事、袖ヶ浦市立蔵波中学校教頭、教育庁教職員課管理主事を経て、平成22年、袖ヶ浦市立根形中学校長。その後、教育庁指導課主席指導主事、同南房総教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長を歴任し、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立五井小学校長 齋藤利光

昭和58年、市原市立三和中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁千葉地方出張所指導主事、同南房総教育事務所指導主事、千葉市立星久喜中学校教頭、市原市教育委員会指導課指導主事を経て、平成23年、市原市立姉崎小学校長。その後、千葉県総合教育センター主席研究指導主事、教育庁指導課主席指導主事、市原市教育委員会学校教育部次長、同部長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立園生小学校長 網野 一 志

昭和59年、千葉市立幸町第一小学校教諭。管内小学校教諭、千葉市立磯辺第二小学校教頭、千葉市教育委員会教職員課管理主事、同教育センター指導主事、同学校支援室主任指導主事を経て、平成25年、千葉市立椎名小学校長。その後、平成28年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科の振興に尽力し、本県教育の振興に寄与した功績は大である。

流山市立北部中学校長 金子 邦 晃

昭和57年、野田市立第一中学校教諭。管内中学校教諭、流山市教育委員会指導課指導主事、教育庁体育課保健体育主事、流山市立東部中学校教頭、管内中学校教頭を経て、平成23年、松戸市立栗ヶ沢中学校長。その後、流山市立八木中学校長、流山市教育委員会スポーツ振興課長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績をあげ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立成田中学校長 日 暮 美智子

昭和58年、印旛郡酒々井町立酒々井中学校教諭。管内中学校教諭、成田市教育委員会教育指導課指導主事、成田市立吾妻中学校教頭、教育庁北総教育事務所指導主事を経て、平成25年、佐倉市立佐倉東小学校長。その後、教育庁北総教育事務所主席指導主事、同指導室長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、英語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立東金中学校長 市 東 努

昭和57年、東金市立東金中学校教諭。管内中学校教諭、東金市立東金中学校教頭、教育庁東上総教育事務所管理主事を経て、平成23年、芝山町立東小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席指導主事、同管理課長、同次長を歴任し、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

山武市立成東中学校長 井 上 博文

昭和58年、千葉県立四街道養護学校教諭。管内中学校教諭、千葉県立農業大学校副主査、九十九里町立九十九里中学校教頭、山武市教育委員会学校教育課主幹を経て、平成25年、山武市立山武中学校長。その後、山武市教育委員会学校教育課指導室長、同課長となり、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

館山市立第三中学校長 飯田 博一

昭和57年、安房郡富山町立富山中学校教諭。管内中学校教諭。三芳村教育委員会指導主事、南房総市教育委員会学校教育課指導主事、館山市教育委員会学校教育課指導主事、館山市立第三中学校教頭、館山市教育委員会主任指導主事を経て、平成23年、館山市立船形小学校長。その後、教育庁南房総教育事務所主席指導主事、同学校安全保健課主席指導主事、同生涯学習課社会教育振興室長を歴任し、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

南房総市立三芳中学校長 吉田 徹

昭和57年、鴨川市立江見中学校教諭。管内中学校教諭、南房総市立富山中学校教頭、千葉県総合教育センター研究指導主事を経て、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育及び視聴覚教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鋸南町立鋸南中学校長 岡野 英貴

昭和57年、市原市立姉崎中学校教諭。県内中学校教諭、教育庁安房地方出張所社会教育主事、鴨川市立鴨川中学校教頭、鴨川市教育委員会学校教育課主任指導主事、同主任管理主事を経て、平成27年、南房総市立南三原小学校長。その後、教育庁南房総教育事務所安房分室長となり、平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、英語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

木更津市立木更津第一中学校長 廣部 昌弘

昭和57年、木更津市立中郷中学校教諭。管内中学校教諭、教育庁君津地方出張所指導主事、同管理主事、千葉県子どもと親のサポートセンター研究指導主事、木更津市立木更津第一中学校教頭、木更津市教育委員会学校教育課主幹、同まなび支援センター所長を経て、平成22年、木更津市立太田中学校長。その後、木更津市教育委員会参事兼学校教育課長を経て、平成29年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

君津市立君津中学校長 渡邊 史郎

昭和57年、君津市立周西中学校教諭。管内中学校教諭、君津市教育委員会学校教育課指導主事、同指導課係長、君津市立君津中学校教頭、教育庁南房総教育事務所指導主事、君津市教育委員会体育振興課長を経て、平成28年、君津市立大和田小学校長。平成30年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立葛城中学校長 大 井 力

昭和58年，千葉市立花見川第一中学校教諭。管内中学校教諭，千葉市児童相談所主査補，千葉市立さつきが丘中学校教頭，千葉市教育委員会学事課管理主事を経て，平成26年，千葉市立川戸中学校長。その後，千葉市教育委員会学事課統括管理主事，同学事課長を歴任し，平成30年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，数学科教育の振興に尽力し，本県教育の振興に寄与した功績は大である。

千葉市立誉田中学校長 安 部 浩 一

昭和59年，千葉市立轟町中学校教諭。管内中学校教諭，教育庁指導課指導主事，千葉市立千草台中学校教頭，千葉市教育委員会指導課指導主事，同主任指導主事を経て，平成27年，千葉市立山王中学校長。その後，千葉市教育委員会指導課教育支援担当課長となり，平成29年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，数学科教育の振興に尽力し，本県教育の振興に寄与した功績は大である。

千葉市教育委員会学校教育部長 伊 藤 裕 志

昭和58年，千葉市立花見川第三小学校教諭。千葉大学教育学部附属小学校文部教官教諭，千葉市教育委員会企画課主査補，千葉市立真砂第二小学校教頭，千葉市教育委員会指導課指導主事を経て，平成25年，千葉市立弁天小学校長。その後，千葉市教育委員会学事課統括管理主事，同指導課長を歴任し，平成28年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の振興に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

千葉県立館山総合高等学校

平成20年、千葉県立館山・安房水産高等学校を統合し開校。以来、全日制4学科と定時制において、地域社会に貢献する様々な取組を実践してきた。平成28年度には、第64回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会に関東ブロック代表で出場。防災の学びと地域との協働を視点に発表し、文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞した。平成30年度から文部科学省からスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの指定を受け、地域、関係機関との連携のもと研究実践に取り組むなど本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立袖ヶ浦特別支援学校

昭和43年、千葉県立袖ヶ浦養護学校として開校。平成26年度、千葉県教育委員会研究指定により、高次脳機能障害のある児童生徒に対する指導・支援について成果をあげた。また、同年度から「通級による指導」を開始し、小・中学校に在籍する肢体不自由の児童生徒への指導や担任等への支援を行い、専門性の高い教育的ニーズに応じられるよう努めてきた。更に、平成28年度から千葉県教育委員会研究指定により、「医療的ケアを必要とする児童生徒が在籍する小・中学校、特別支援学校及び関係機関とのネットワークづくりと支援の在り方について」の研究を進めており、本県の特別支援教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立四街道特別支援学校

昭和40年、千葉県立四街道養護学校として開校。筋ジストロフィー症や重度・重複障害児の研究に先駆的に取り組み、病弱の子供たちの教育の可能性を拡大してきた。平成25年度から小・中学校に在籍する病弱の児童生徒を対象とした「通級による指導」を開始するとともに、同27年度から同30年度の4年間、文部科学省の研究開発学校として、「特別支援学校（病弱）高等部における、病気等療養のため通学して授業を受けることが困難な生徒に対するICTを活用した遠隔教育の在り方について」の研究をまとめた。これまでの教育実践は、国内でも高く評価されており、本県病弱教育の進展に寄与した功績は大である。

八千代市立大和田南小学校

昭和47年開校。以来、生活科・社会科の研究に取り組み、平成2年度から毎年公開研究会を開催している。平成16年度からは「学習の自立と共生」の研究主題で研究を重ね、その成果を公開研究会等で県内外に発信している。さらに「持続可能な開発のための教育（ESD）」の推進に取り組み、平成30年度には、ユネスコスクールに加盟承認されている。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ヶ谷市立五本松小学校

昭和53年開校。以来、道徳教育実践校として道徳教育に取り組み、平成27・28年度には、千葉県教育委員会指定「特色ある道徳教育推進校」として研究実績を残した。平成30年度「オリンピック・パラリンピックを活用した教育推進校」として様々な取組を発信している。また、読書教育を通して地域の人材を活用し、図書環境の充実、読書集会の企画、授業だけでなく児童会との協働、市の図書館との連携など幅広い活動を展開している。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

佐倉市立寺崎小学校

昭和62年開校。以来、心豊かなたくましい児童の育成を目指し、道徳教育と食育に重点を置いて研究実績を上げている。平成29年度には、千葉県教育委員会から「特色ある道徳教育推進校」の指定を受け、道徳授業を広く公開した。また、平成28・29年度には、千葉県教育委員会から「地域における食育指導推進事業」の指定を受け、地域の拠点校として食育に取り組み、教育実践を地域や学校に公開し、同30年度には、千葉県学校健康教育優良校表彰を受賞した。これらの教育実践は高く評価され、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

横芝光町立東陽小学校

明治8年開校。以来、心身ともに健康で、知・徳・体の望ましい資質を身に付けた児童の育成に地域と連携を図りながら取り組み、成果を上げてきた。平成24年度には、山武教育研究会横芝光・芝山地区体育部指定体育研究校として成果を発表した。平成28年度から同30年度、千葉県教育委員会「『学力・学習状況』検証事業」協力校の指定を受け、平成29年度には、「学力向上交流会」会場校として、取組の成果を発表した。平成29年度には、千葉県学校保健研修会にて実践発表している。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立海上小学校

明治6年開校。以来、造形教育、外国語教育推進校として、小中一貫教育を実践し、地域社会との連携を深めつつ、先進的な取組をし、研究実績を上げてきた。平成28年度から同30年度には、「国立教育政策研究所実践研究校（図工）」、平成29年度には、文部科学省「外国語活動教育課程特例校」の指定を受け、造形教育、外国語教育研究の拠点校として、幅広い活動を展開している。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の推進に寄与した功績は大である。

千葉市立小中台南小学校

昭和49年開校。以来、「和・敬・節」を学校経営の信条とし、社会の要請に対応すべく、様々な教育活動を実践している。研究面では、平成28年度より外国語活動・外国語の研究を始め、平成29・30年度に千葉市教育委員会「学習指導(外国語)」の研究指定を受け、様々な指導方法の研究に取り組んできた。平成30年度には、『『思いを伝え合う』子どもの育成～英語によるコミュニケーション活動を通して～』を研究主題に研究報告を行い、成果を市及び県内に広く発信した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立宮本中学校

昭和22年開校。以来、学校教育目標「一人一人が生き生きと行動し、自己表現できる生徒を育成する」を実現するために邁進してきた。平成5年度に文部省から「中学校生徒指導総合推進校」の研究指定を受け、生徒指導の研究を深めた。平成27年度から同29年度には、船橋市学校体育研究指定校として実践研究に取り組み、平成30年度には、全国学校体育研究優良校の表彰を受けた。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

野田市立木間ヶ瀬中学校

昭和22年開校。以来、人権教育に力を入れ、社会福祉施設、県立高校、小学校との連携を深め、地域に密着した学校作りを推進してきた。平成29・30年度、野田市教育委員会「学校人権教育研究指定校」、平成30年度、千葉県教育委員会「特色ある道德教育推進校」として指定を受け、生徒の人格形成に働きかける授業づくりや環境整備に取り組むなど、学校人権教育、道德教育を推進し、公開研究会を開催して研究の成果を全県的に広めた。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校

昭和22年開校。以来、PTA活動優良校、学校環境優良校に輝くとともに、研究校として、千葉県教育委員会指定「食と農の体験研究推進校」、「豊かな人間関係づくり推進校」、「道德教育研究推進校」等の様々な研究に取り組んだ。平成27年度から同29年度、千葉県学校体育研究大会開催地校の指定を受け、「自ら進んで運動に親しむ児童生徒を育む体育学習の在り方」について研究を推進し実績を残した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

長生村立長生中学校

昭和36年開校。以来、創造性・人間性豊かな生徒の育成に取り組み、大きな成果を上げてきた。平成24年度「交通安全教育モデル事業推進校」、平成26年度「長生村教育研究協議会研究指定校」として研究を推進し成果を発表した。平成28年度から同30年度、千葉県教育委員会「『学力・学習状況』検証事業」協力校の指定を受け、平成30年度には、学力向上交流会の会場校として、授業公開及び分科会において研究発表し、成果を広めた。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大多喜町立大多喜中学校

昭和22年開校。以来、活力のある生徒の育成に取り組み、成果を上げてきた。平成23年度「確かな学びの早道『読書』事業」実践協力校として研究を推進した。平成27年度、千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会会場校として、授業公開し研究推進に寄与した。平成28年度から同30年度、千葉県教育委員会「『学力・学習状況』検証事業」協力校となり、同30年度には、学力向上交流会にて研究発表し、その成果を広めた。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立緑町中学校

昭和22年開校。以来、先進的な研究を重ねてきた。平成21年度に文部科学省より「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」の委託を受け、ICT機器の効果的な活用について研究を推進した。さらに、千葉市教育委員会の指定を受け、ICT機器の活用を通して、平成22・23年度には、「確かな学力をはぐくむための『わかる授業』の創出」、同25・26年度には、「豊かな思考力・判断力・表現力をはぐくむための言語活動の充実」を研究主題として研究を推進し、同26年10月に研究報告を行い、成果を市及び県内に広く発信した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立塩浜学園

昭和56年開校の塩浜小学校及び同57年開校の塩浜中学校を平成27年小中一貫校に統合し、平成28年義務教育学校として開校。以来、県内初の義務教育学校として、9年間の豊かな「学び」と「育ち」をつなぎ、系統性・連続性を重視した小中一貫教育の先進的な取組を全国に発信してきた。平成29・30年度、文部科学省の委託を受け、カリキュラム・マネジメント調査研究実践校となり、外国語教育の効果的な実践について調査研究に取り組んだ。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。